

ジリリリリ……

腕を伸ばし、目覚ましを止める。普段と変わらない時間、普段と変わらない音が鳴り止む。伸びをしてベッドから降りると、パジャマのボタンを外し始める。普段と変わらず制服に着替えるためだ。

着替え終わって部屋から出、階段を降りてリビングに向かう。普段と変わらず朝食を食べるためだ。

テーブルの上には三人分の朝食が並べられ、既に親父とお袋が食べ始めている。

「おはよ」

「うむ」

「京介、おはよう」

両親に挨拶をして席に着く。これも普段と変わらない。親父はぶつきらぼうで、お袋は軽やかに返事を返す。

俺は二人兄妹で、妹が一人いる。これが糞生意気な妹で、いつも理不尽な要求をしてきては、兄である俺をこき使う。普通なら兄が妹をこき使うもんじゃないか？ 全国ごまんという、妹を持つ兄に訊いてみたい。

11 高坂桐乃の消失

そんな妹——桐乃きり乃と言う——だが、今朝は見かけない。テーブルにも桐乃の分の食事は用意されていない。

これは別に桐乃が両親から虐待ぎゃくたいを受けていて、朝食を用意されていない訳ではない。陸上部に所属する妹は、朝練に出るために他の家族より早めに朝食を取り、登校する事が多い。普段と変わらない光景だ。

「ごちそうさま」

朝食を両親よりも早く食べ終えた俺は、自分の皿を空くわの流し台まで持って行き、リビングを後にした。後は昨晚のうちに用意していた鞆たもとを取り、家を出るだけだ。

「ただいま」

平穩無事に授業を終え、帰宅する。実に普段と変わらない。

暫く自分の部屋で過ごし、夕食の時間になったのでリビングに降りてきた。時間通りに集まらないと、我が家では食事しじにありつけない。

既に親父は席に着いて待っていた。俺は親父の前のテーブルを見て、違和感を抱く。

夕食が三人分しかない。朝は桐乃の朝練のために、三人分しかない事は普通の事だ。だが、夕食は部活終了の時間や、親父の帰宅時間も考慮して決められている。四人分の夕食が無いのは